

事 項	西洋ナシ果実に黒点症状を呈する新病害と防除対策		
ね ら い	平成元年ころから、西洋ナシの果実に黒点症状を生ずる病害が発生している。本病害は新病害であることが明らかになったので、その病原菌と防除対策を参考に供する。		
指 導 参 考 内 容	<p>1 被害果の特徴</p> <p>(1) 果点を中心にした直径0.5～3mmの黒色病斑として現れる。病斑はやや凹み、周囲は緑色を呈する。発病の激しい果実では、病斑数は数十に達する。</p> <p>(2) 病斑直下の果肉は黒変しているが、その部分から腐敗することはない。</p> <p>2 病原菌</p> <p>本症状を引き起こす病原菌は、リンゴ黒点病菌の不完全世代 (<i>Cylindrosporium pomi</i>) と同一である。</p> <p>(1) 病原菌の胞子は、リンゴ黒点病菌の分生胞子の形態と一致した。</p> <p>(2) 病原菌は、りんご果実に黒点病を発生させた。</p> <p>(3) リンゴ黒点病菌は、西洋ナシに黒点症状を生じさせた。</p> <p>(4) 病名をセイヨウナシ黒点病として提案する予定である (平成11年度、日本植物病理学会)。</p> <p>3 防除対策</p> <p>6月上旬～7月中旬に、黒星病、輪紋病の防除剤のうち、キャプタン・有機銅を選択して散布すると、同時防除できる。</p>		
期待される効果	西洋ナシの黒点症状の原因が明らかとなったので、適切な防除対策が可能となり、良品生産に寄与する。		
利用上の注意事項	な し		
担 当	青森県りんご試験場県南果樹研究センター 病虫肥料部	対 象 地 域	県下全域
発 表 文 献 等	平成2、3年度青森県畑作園芸試験場試験成績概要集 平成10年度青森県りんご試験場県南果樹研究センター試験成績概要集 (予定) 平成11年度日本植物病理学会 (発表予定)		

【根拠となった主要な試験結果】

表1 分離した病原菌の孢子形態

(平成10年 県南果研センター)

菌 株	形 態	大 き さ	隔 壁 数
西洋ナシ分離株 ¹⁾	線状～円筒形、無色	9～85 μ m×1.5～3 μ m	0～7
<i>Cylindrosporium pomi</i> ²⁾	線状～円筒形、無色	8～93 ×1.5～3	0～7
<i>Cylindrosporium pomi</i> ³⁾	線状、無色	38～70 ×3～3.5	2～7
<i>Cylindrosporium pomi</i> ⁴⁾	スレンダー、無色	20～50 ×2～3	0～4

注1) 平成9年、ラ・フランス果実から分離、2) 平成9年、ふじ果実から分離

3) 三浦(1915年)、4) Brooks(1912年)

表2 接種による発病及び再分離の状況

(平成10年 県南果研センター)

供 試 果 実	接 種 源	発 病 状 況 ¹⁾		再 分 離 の 状 況	
		発病 果数/供試 果数	平 均 病 斑 数	再分離 病斑数/供試 病斑数	再分離率
西 洋 ナ シ (ラ・フランス)	西洋ナシ分離株 ²⁾	6/6	123.8	19/26	73.1%
	<i>Cylindrosporium pomi</i> ³⁾	7/7	80.9	15/21	71.4
	無接種	4/6	5.2	—	—
り ん ご (ふじ)	西洋ナシ分離株 ²⁾	8/9	9.1	18/20	90.0
	<i>Cylindrosporium pomi</i> ³⁾	8/8	8.9	17/19	89.5
	無接種	0/7	0	—	—

注1) 接種：6月17日、調査：9月24日

2) 平成9年、ラ・フランス果実から分離、3) 平成9年、ふじ果実から分離

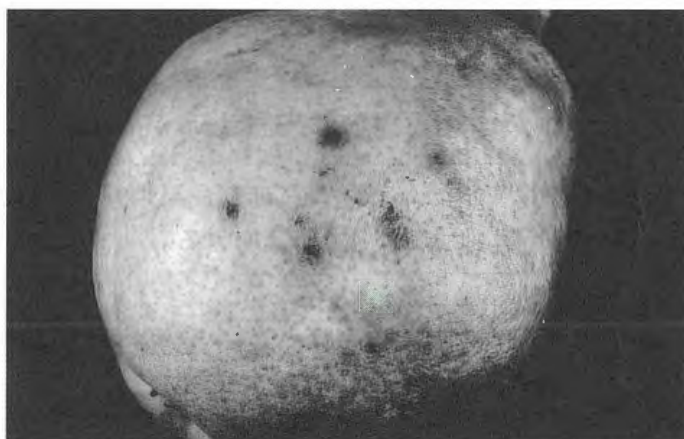
表3 西洋ナシ果実の黒点症状に対するキャプタン・有機銅の防除効果 (平成6年度 青森畑園試、未発表)

薬 剤 ・ 倍 数	品 種	調査果数	発病果率	発 病 度
トモオキシラン水和剤 500倍	ゼネラル・レクラーク	42	9.5%	3.2
	ラ・フランス	30	6.7	5.6
無 散 布	ゼネラル・レクラーク	39	100	76.9
	ラ・フランス	25	100	86.7

注1) 散布：6月3日から8月3日まで約10日間隔で7回散布、調査：9月26日

2) 発病度 = Σ (指数×指数に該当する果実数) / (3×調査果数)

指数0：病斑なし、1：病斑数が1～5、2：病斑数が6～15、3：病斑数が16以上



西洋ナシ (ラ・フランス) の黒点症状果実